明石中学・明石高等学校

音楽部創部80年周年記念誌

～　音楽部８０年の遥かなる軌跡を思い　～

今から30年前、「明石高校音楽部創部50周年記念演奏会」のプログラムに、「昭和54年5月現在」として、こんなことを書いた。「新入部員が30数人も音楽部の門をたたき、総勢70人に達するかという大所帯に膨れ上がっている。思えば昭和47年、部員がわずか27人にまで落ち込み、コンクール出場に当たっては、全く演奏経験のない者を柔道部から引っ張り、にわか部員に仕立てて員数を水増ししたこともあった。これも今や、隔世の感―。“50年”は、やはり長い」と。

ほんの10年ほど前のように思えるが、あっという間に、とてつもない歳月が流れた。思えば私自身、当時まだ26歳で、新米記者の傍ら、明高OB吹奏楽団のチューバ奏者として毎年、コンクールに、定期演奏会にと張り切っていたころだった。それから10年間、現役音楽部員と手を携えながら繰り広げた演奏活動を懐かしく思い出す。そんなOB楽団と一心同体とも言えたわが青春も、昭和63年3月の転勤とともに仕事のため身動きできなくなった。以来、現在までの20年間は、残念ながら、時折、定期演奏会に出向いたぐらいの接点しかない。この時期に関しては、各氏の証言を基に記憶の穴を埋めつつ、沖津幸宏氏（高25回生）作成の年表を参考に、音楽部80年の歴史を振り返りたい。

［ 創 設 期 ］

まずは、その前史から。旧制の市立明石中学校創立2年後の大正14年に創設された音楽部がルーツ。といっても活動の実態はよく分からない。「楽声部」のような存在だったとされる。さらに2年後の昭和2年には「ハーモニカバンド」に改編したところ、全国的なブームもあって、20数人の部員に加えて、入部希望者が殺到したらしい。翌3年、県営に移管され、兵庫県立明石中学校が発足。翌4年4月、有永正人先生（1905―66年）の着任とともに「吹奏楽」への準備が始まった。臨時費400円（現在の約250万円）、経常費100円をもって、コルネット、クラリネット、アルト、バリトン、トロンボーン、バスの楽器を購入した。アルトとは、ユーホニウムを小さくした形のＥ♭の楽器で、ホルンのパートに当たる。バリトンは、ユーホと同じＢ♭だが、管が細く作られている。その分、両楽器とも柔らかみに欠ける半面、安価で音が鋭く決まる特長を武器に昭和40年ごろまで使われていたが、今日ではあまり目にしなくなった。

［ 明中音楽部時代 ］

吹奏楽による音楽部は、準備・練習期間を経て昭和5年5月27日、中崎海岸で行われた「ボートレース」でお披露目された。続く「秋の運動会」でも、グラウンドに響かせたブラスサウンドが山内（やまのうち）佐太郎校長の心を動かしたのか、ポケットマネーというにはあまりに多い200円を音楽部に寄せたと伝える。1年間共存したハーモニカバンドが6年に解散、以後「音楽部」は吹奏楽一本となった。

有永先生は、自校の活動に甘んずることなく、県全体の吹奏楽を盛り上げようと、横のつながりを進め、「県中等学校吹奏楽連盟」を結成。昭和9年2月には市立山手尋常小学校（神戸市中央区、現山の手小）で記念の「第1回合同演奏会」を開いた。計4校が参加、明石中学は有永先生の指揮で「ラジオマーチ」と「序曲『少年』」を演奏した。戦前、この合同演奏会は、参加校を増やしながら17年まで連盟の重要な行事として続いたが、戦時体制の中、同年、連盟を「県中等学校報国団男子音楽班」と改称した。その前年、既に明石中学では校友会音楽部が「報国団音楽班」となっており、次いで「報国隊―」に変わり、戦局が緊迫した19年、部活動は停止した。

このように戦前期、明石中学音楽部と有永先生は、県内の吹奏楽運動を牽引（けんいん）する役割を担ってきた。だが、それだけではない。現在の高校野球、当時の「全国中等学校優勝野球大会」でも、大きな足跡を記している。中でも昭和10年8月13日、甲子園球場での開会式は意義深い。現在も使われている「夏の甲子園」入場行進曲が山田耕筰によって作曲され、初めて披露された大会（第21回）だからである。実は、この曲には芦屋市在住の詩人・富田砕花（さいか）の歌詞が付いていた。「百戦鍛えるこの壮美　羽搏（はばた）け若鷹（わかたか）　雲裂きて…」。これを大阪市出身で、コロムビアの「青盤テナー」内本実が歌ったレコードも発売されるほど、力が入っていた。そんな記念的色彩の濃い大会の演奏を明石中学と、県立工業、県立第一商業、大阪府立天王寺商業の計4校合同・総勢117人が担当したのだった。指揮は、作曲者の山田自身。大会の模様はNHKのラジオ放送を通じて全国に流れ、戦前最大のひのき舞台となった。

［ 明高音楽部時代へ ］

そして敗戦―。日本国中、あらゆる物資が不足してはいたが、翌昭和21年、音楽部は戦後の再スタートを切る。23年には新制明石高校が発足。その3年後、社会が落ち着きを取り戻しつつあった26年12月、全国を通じて戦後初となるコンクールが大阪・朝日会館で開かれた。県・全日本大会ともにまだ開催されておらず、とりあえず関西全域をエリアとした大枠での再開となった第1回全関西（36年以降、関西）吹奏楽コンクール「学校の部」に出場して2位、第3回では「ファンファーレの部」で見事優勝、第4回「高校の部」で3位に入るなど、関西に明石高校ありを印象づけた。

［ 明高OB吹奏楽団の誕生 ］

遅れていた全日本大会も昭和31年12月にようやく大阪府立体育会館で再開した。経済白書にうたわれた「もはや戦後ではない」時代に入り、中学や高校の部は、順調に参加校を増やしていったが、「一般・大学の部」は低調だった。そこで戦前から吹奏楽の普及に尽くしてきた有永先生のもとへ連盟から依頼があった。「卒業生のバンドを一般・大学の部に出場させてくれないか」と。

実は明石中学では、戦争が終わってまだ4カ月にしかならない昭和20年12月、「明中OB吹奏楽団」が誕生しており、新制高校が発足した翌年の24年には「明高旺美吹奏楽団」に改称して再出発していた。しかし活動が断続的であったため、32年1月に再々度、仕切り直しをしたのが「明石高校OB吹奏楽団」である。早速、優秀な現役生を加えて出場した同年11月の全関西大会で優勝、東京・両国国技館での全日本大会では惜しくも2位と、東海代表の蒲郡中学OBに一歩及ばなかった。しかし翌33年の全日本大会（名古屋市公会堂）では中央大学を退け1位に輝き、後にNHKラジオ第2放送で全国に流れた。以後、大会規定の変更により現役とOBの混成が禁止される前年の41年まで、「3年連続日本一」を含む明高OBの黄金時代が続いた。

「現役単独」のコンクールを振り返れば、昭和43、44、49、52年に「県代表＝関西大会出場」を果たしたが、53年に県「東播予選」が導入されて以降、現在まで関西大会に縁がなくなったのは少し寂しい。しかし、コンクール史上忘れられないのは、54年、部員が70人近くに達し、コンクールに出場できない現役部員が多数出た際、この「あぶれ組」を励ますため、OB吹奏楽団に加わってもらったことだ。連盟規定の再変更により、41年以来、13年ぶりの現役OB合同によるコンクール出場が実現した。成績こそ振るわなかったが、現役生にはいい経験になったものと思う。

［ 現役音楽部のコンクールの指揮者を振り返って ］

現役音楽部をコンクールで振った「指揮者」でとらえるのも興味深い。現在の鈴木龍仁先生が平成14年から今年で8回目になり、その前の山本茂之先生（高28回生、現県教委播磨西教育事務所副所長）は、平成18年「のじぎく兵庫国体」のテーマソング「はばタンカーニバル」の作曲で知られ、平成5年から13年まで9回にわたってコンクールの指揮をした。ところが、不思議にも明石高校では、コンクールで音楽教師が指揮することが長年なかったのである。創部以来の顧問である有永先生は昭和40年まで、戦後だけで計10回振ったが、連続ではなく、間にOBの呉幸五郎氏（中13回生）が2回担当している。

そして、注目すべきは、昭和42年から山本先生が着任する前年まで実に25年間も、明石高校の現役音楽教師は振っていないのである。詳しくは、一覧表に譲るが、これは驚くべき事実である。では、誰が指揮台に立ったのか―。ほとんどが当時20歳代前半までのOBの大学生であった。複数回振った方に敬意を表して、古い順から列記する。松井隆司（高20回生）桑原孝雄（22回生）二階堂正隆（24回生）世戸啓之（27回生）延原正生（33回生）塩岡重明（37回生）の各氏だ。こうしたOBとの強いきずなが、80年の長きにわたる活動を支えてきたのだろう。

またOBでは、先の松井・桑原両氏のように地元で中学・高校の音楽教師となり、吹奏楽やオーケストラを指導している方がかなりの数に達するし、プロの演奏家や作曲家として全国や世界をまたに活躍している方も多い。元職を含めると、古くは大阪フィルのバイオリン奏者・阿部修也（中20回生）、日本有数のビッグバンド「ブルーコーツ」の指揮者・森寿男（併1回生）と同年の明中入学で同楽団のトランペット奏者・本木英夫（高3回生）、デキシーランドジャズのトランペット奏者・伊藤隆文（併2回生）、京都市交響楽団を経て関西フィルのライブラリアンだった藤井安彦（高3回生）、大阪フィルの前身・関西交響楽団を経て大阪交響楽団のトランペット奏者・山本義隆（高6回生）、大阪市音楽団ファゴット奏者・大崎健一（高11回生）、大阪フィル主席トロンボーン奏者を経て京都市立芸大教授の呉信一（19回生）、ロシア連邦サハ共和国のヤクーツク歌劇場管弦楽団・正指揮者の山本郁夫（32回生）、洗足学園音楽大講師で作曲家の延原正生の各氏らがいる。

［ 新しい時代へ向けて ］

その延原氏は、本日の記念演奏会のためにオリジナル曲「遥かなる時空の黎明」を書き下ろしてくれた。余談になるが、「ジュピター」で一世を風靡した歌手の平原綾香さん（サックス専攻）は、高校・大学を通じて延原氏の教え子で、洗足学園音大時代に聴かされたホルストの組曲「惑星」から「木星」が耳に残り、後のヒットにつながったという。

ともあれ本日、「創部80周年」を迎えた。30年前の「うれしい悲鳴」とは裏腹に、ここ20数年は「部員不足」に悩まされている現役音楽部。そんな苦難の時代にも昭和60年、現在に続く定期演奏会を始めたし、山本茂之先生の着任8年目の平成12年には、定演の呼び物として「音楽劇」も取り入れた。コンクールでも少人数ながら、地道な努力の結果、激戦の東播地区予選を突破し、平成6、10、13、15年に県大会への出場を果たした。

記念曲にあやかれば、創部以来の「遥かなる時空」を越えて、今、21世紀に新たな時を刻む「黎明」期を迎えた。この演奏会を第一歩として、来る100周年へ、大いなる飛躍を期待したい。

（山崎　整＝高23回生、神戸新聞解説委員幹事兼編集委員、神戸学院大客員教授）

音　楽　部　年　表

年月日	出来事
大正12年4月(1923年)	市立明石中学校開校。
大正14年	音楽部創設。当時は楽声部的なものであったといわれる。
昭和2年	ハーモニカ・バンド編成。
昭和3年4月1日	県営移管。　兵庫県立明石中学。
昭和4年	有永正人先生着任。 吹奏楽部への準備開始（ｺﾙﾈｯﾄ・ｸﾗﾘﾈｯﾄ・ｱﾙﾄ・ﾊﾞﾘﾄﾝ・ﾄﾛﾝﾎﾞｰﾝ・ﾊﾞｽ購入）
昭和5年	吹奏楽部として表舞台にデビュー（但し、ハーモニカバンドと吹奏楽が共存） 5月27日、中崎海岸ボートレースにて初演奏。
昭和6年	ハーモニカ・バンド解散。音楽部は吹奏楽一本となる。
昭和8年7月	兵庫県吹奏楽連盟結成準備会。明石中から有永正人、長谷川麟三の両先生参加。
昭和9年2月11日	県中等学校吹奏楽連盟第1回合同演奏会（山手尋常小で）、明石中音楽部ほか3校参加。 有永先生が「ラジオマーチ」と序曲「少年」を指揮。
昭和10年2月11日	県中等学校吹奏楽連盟第2回合同演奏会（県立第1高女で）
昭和10年4月28日	大楠公600年祭（甲子園球場で）
昭和10年11月30日	県中等学校吹奏楽連盟第3回合同演奏会（山手小で）、明石中ほか5校参加。
昭和11年8月13日	全国中等学校野球選手権大会開会式。兵庫県・大阪府中学合同吹奏楽団。
昭和11年11月5月	県中等学校吹奏楽連盟を兵庫県吹奏楽連盟と改称。規約制定会議に有永、長谷川 両先生ら8教諭と朝日新聞から逸見氏が当たる。加盟校は明石中など計10校。
昭和11年11月28日	県吹奏楽連盟第4回合同大演奏会。
昭和12年12月4日	同第5回大演奏会。
昭和13年11月27日	同第6回大演奏会。
昭和14年11月11日	大日本吹奏楽連盟結成（東京・日比谷で）。関東、関西、東海の各代表出席。
昭和14年11月25日	県吹奏楽連盟第7回合同大演奏会。加盟校13に増える。
昭和15年2月11日	皇紀紀元2600年奉祝大音楽会。（神戸市海員会館で）
昭和17年11月21日	吹奏楽合同大演奏会。県吹奏楽連盟を兵庫県中等学校報国団男子音楽班と改称。
昭和19年	戦局が窮迫したため部活動停止
昭和20年8月	戦争終結
昭和21年	音楽部再スタート
昭和23年	新制県立明石高等学校の誕生。
昭和26年12月26日	関西吹奏楽コンクール再開　学校の部　2位
昭和28年10月18日	関西吹奏楽コンクール　ファンファーレの部　優勝
昭和29年10月24日	関西吹奏楽コンクール　高等学校の部　3位
昭和31年	全日本吹奏楽コンクール再開
昭和32年12月8日	明高OB吹奏楽団結成 OB吹奏楽団が関西優勝・全国2位
昭和33年11月30日	明高OB吹奏楽団として全国1位　　※現役メンバーも加えたOB吹奏楽団としてコンクールに参加
昭和34年8月16日	納涼コンサートを明石公園バレーコートにて開催
昭和35年8月28日	納涼コンサートを明石公園バレーコートにて開催
昭和36年8月29日	第一回明石吹奏楽の夕べ　納涼コンサートを発展、改称　明石高、明石南高、明石商高、星稜高、明石OB　出演
昭和37年8月	第一回納涼コンサート(生徒会主催)明石高校中部講堂にて開催 ※現在でも中部講堂にて明石高校近隣の中学・高校・一般の合同で開催されている。
昭和37年～	明高OB吹奏楽団として3年連続で全国1位
昭和38年	兵庫県吹奏楽コンクール開始
昭和40年11月14日	兵庫県代表、関西大会出場　有永先生最後の現役コンクール指揮 明高OB吹奏楽団として全日本吹奏楽コンクール　模範演奏
昭和41年11月20日	明高OB吹奏楽団として全国2位
昭和42年	吹奏楽連盟の規定変更に伴い現役・OB供に単独のコンクール参加となる
昭和43年9月8日	兵庫県代表、関西大会(指揮＝松井隆司、[自]コダーイ／歌劇「ハーリ・ヤーノシュ」より間奏曲)。
昭和44年9月7日	兵庫県代表、関西大会（指揮＝松井隆司、[課]吹奏楽のための音詩「南極点への序曲」、[自]歌劇「イスの王様」序曲)。
昭和48年	明石高校創立50周年記念音楽会（指揮＝松井隆司)。
昭和49年9月16日	兵庫県代表、関西大会出場(指揮＝二階堂正隆、[課]吹奏楽のためのｼﾝﾌｫﾆｱ、[自]バレエ音楽「四季」より秋)。
昭和52年8月27日	兵庫県代表、関西大会出場（指揮＝世戸啓之、[課]バーレスク、[自]ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯） ※後に当コンクール参加メンバーによるティル会発足（2006年8月12日）
昭和53年	第2回全国高等学校総合文化祭出演
昭和53年	兵庫県吹奏楽コンクール東播地区予選開始
昭和54年5月6日	音楽部創部50周年記念演奏会（市民会館大ホール、指揮＝山口博之、大崎健一　クラリネット・ソロ=岩井秀昭）
昭和54年8月12日	13年ぶりとなるOBに現役メンバーを加えて明高OB吹奏楽団としてのコンクール参加
昭和61年	第1回定期演奏会(以降、本年の第24回まで継続中）
昭和62年8月30日	OB結成30周年記念演奏会（市民会館大ホール、指揮＝大崎健一、山崎伸之、青山正、呉幸五郎）
平成4年4月	山本茂之先生着任。
平成12年4月	定期演奏での音楽劇の開始。
平成14年4月	鈴木龍仁先生着任。現音楽部顧問。
平成15年8月7日	少人数にかかわらず久しぶりの東播地区予選突破、県大会出場
平成21年5月6日	明石高校音楽部創部80周年記念演奏会。（市民会館大ホール、指揮＝鈴木龍仁、大崎健一、延原正生） 卒業生でもある延原正生氏による明石高校音楽部のための新曲『遥かなる時空の黎明』を初演

明 高 音 楽 部　吹 奏 楽 コ ン ク ー ル 結 果 一 覧

回生	年月日	成績	課題曲	自由曲	指揮者
↓全関西吹奏楽コンクール始まる。					
4	1951.12.26	学校の部2位	行進曲「ハイスクール・カデッツ」(スーザー)	行進曲「雷神」(スーザー)	有永　正人
5	1952.09.21	学校の部4位	行進曲「大通りを行く」(ウエイト)	歌劇　兵士の合唱(グノー)	有永　正人
6	1953.10.18	ﾌｧﾝﾌｧｰの部1位	行進曲「銀の女王」(ハッファ)	バック　オブ　ボンズ(クレイトン・ミルス)	呉　幸五郎
7	1954.10.24	高等学校の部3位	序曲「メダリオン」(ジョンソン)	行進曲「エル・カピタン」(スーザ)	呉　幸五郎
8	1955.11.23	高等学校の部4位	序曲「アンフィオン」(E.シュミット)	序曲「セヴィリアの理髪師」(ロッシーニ)	有永　正人
↓全日本吹奏楽コンクール再開。					
9	1956.11.18	高等学校の部4位	行進曲「花のほほえみ」(J.A.キャンベル)	マーチングウィズスーザ(有永　正人編曲)	有永　正人
10	1957.11.17	高等学校の部	行進曲「剣と槍」(シュタルケ)	交響曲第1番第2楽章(ベートーヴェン)	有永　正人
11	1958.11.16	高等学校の部3位	行進曲「前衛隊」(ジョード・ヒューム)	イタリア奇想曲(抄)(チャイコフスキー)	有永　正人
12	1959.11.08	高等学校の部3位	祝典行進曲(園　伊玖磨)	行進曲「ナイルの護り」(アルフォード)	有永　正人
13	1960.10.31	高等学校の部4位	行進曲「スカイ・ウェイ」(P.ヨーダー)	序曲「エグモント」(ベートーヴェン)	有永　正人
14	1961.10.29	高等学校の部努力賞	行進曲「ジュビリー」(E.F.ゴールドマン)	組曲「水上の音楽」よりアリアとアレグロ(ヘンデル)	有永　正人
15	1962年、現役として出場せず。				
16	1963.09.29	高等学校の部努力賞	希望(川崎　優)	吹奏楽のための交響曲　　第3・第4楽章(V.パーシケッティ)	有永　正人
↓兵庫県吹奏楽コンクール始まる。					
17	1964.09.06	県2位	バンドのための楽章「若人の歌」(兼田　敏)	コマンドマーチ(S.バーバー)	武岡　徹
18	1965.08.29	関西	序曲「パリスとヘレナ」(グルック)	「サンブル・エ・ムーズ連隊」行進曲(プランケット)	有永　正人
19	1966.08.28	県3位	吹奏楽のための小狂詩曲(大栗　裕)	交響曲第3番第4楽章(V.ジャンニーニ)	野村　昭人
20	1967.08.27	県2位	バンドのためのディヴェルティメント(兼田　敏)	アイオラシンより「貴族達の入場と行進」	呉　信一
21	1968.09.08	関西	移り気な5度のムード(塚原　哲夫)	歌劇「ハーリ・ヤーノシュ」より間奏曲(コダーイ)	松井　隆司
22	1969.09.07	関西優良賞	吹奏楽のための音詩「南極点への序曲」(岩河　三郎)	歌劇「イスの王様」序曲(ラロ)	松井　隆司
23	1970.08.24	県優秀賞	音楽祭のプレリュード(A.リード)	トッカータとフーガニ短調(バッハ)	松井　隆司
24	1971.08.22	県優秀賞	行進曲「太陽の下に」(奥村　一)	歌劇「イーゴリ公」より　ダッタン人の踊り(ボロディン)	松井　隆司
25	1972.08.26	県優秀賞	シンフォニック･ファンファーレ(三沢　栄一)	タンホイザー大行進曲(ワーグナー)	桑原　孝雄
26	1973.08.28	県優秀賞	吹奏楽のためのアラベスク(名取　吾朗)	時の踊り(ポンキエルリ)	二階堂正隆
27	1974.09.16	関西	吹奏楽のためのシンフォニア(小林　修)	バレエ音楽「四季」より　秋(グラズノフ)	二階堂正隆
28	1975.08.02	県銀賞	吹奏楽のための練習曲(小林　徹)	交響組曲「寄港地」よりバレンシア(イベール)	徳田　康行
29	1976	県銀賞	カンティレーナ(保科　洋)	エル・サロン・メヒコ(コープランド)	桑原　孝雄
30	1977.08.27	関西優良賞	吹奏楽のためのバーレスク(大栗　裕)	「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯」(R.シュトラウス)	世戸　啓之
↓県吹奏楽コンクール東播予選始まる。					
31	1978.08.20	県銀賞	ジュビラーテ(R.ジェイガー)	交響的断章「パシフィック231」(オネゲル)	世戸　啓之
32	1979.08.12	県金賞	フェリスタス(青木　進)	ディオニソスの祭り(フローラン・シュミット)	世戸　啓之
33	1980.08.17	県銀賞	行進曲「オーバー・ザ・ギャラクシー」(斎藤　高順)	バレエ音楽「ペトリューシカ」(ストラヴィンスキー)	世戸　啓之
34	1981.08.16	県金賞	イリュージョン(鵜沢　正晴)	バレエ「ロミオとジュリエット」よりモンタギュー家と キャピレット家　・　タイボルトの死(プロコフィエフ)	世戸　啓之
35	1982	東播金賞	吹奏楽のためのカプリチオ(吉田　公彦)	アルメニアンダンスパートⅡよりロリのうた(A.リード)	延原　正生
36	1983	県金賞	カドリーユ(後藤　洋)	黙示録(R.ジェイガー)	延原　正生
37	1984.08.12	県時間超過失格	シンフォニエッタ(三上 次郎)	フェスティバル・バリエーション(スミス)	延原　正生
38	1985	東播銀賞	吹奏楽のための交響詩「波の見える風景」(真島　俊夫)	トリチコ(ネリベル)	延原　正生
39	1986.08.10	県銀賞	コンサート・マーチ「テイク・オフ」(藤田　玄播)	夜想曲より「祭り」(ドビュッシー)	泉　正隆
40	1987	東播金賞	風紋(保科　洋)	祝典序曲(ショスタコーヴィッチ)	山崎　伸之
41	1988	東播金賞	交響的舞曲(小林　徹)	フェスティバルバリエーション(C.T.スミス)	塩岡　重明
42	1989	東播	ポップス・マーチ「すてきな日々」(岩井　直博)	アメリカ独立戦争の聖歌による変奏曲 (C.T.スミス)	塩岡　重明
43	1990.08.11	県銀賞	マーチ「カタロニアの栄光」(間宮　芳生)	メトセラ　～打楽器群と吹奏楽のために(田中　賢)	吉井　健文
44	1991	東播金賞	コーラル・ブルー(真島　俊夫)	まつり(伊藤康英)	時岡　伸晃
45	1992.08.07	県銀賞	吹奏楽のためのフューチュリズム (阿部勇一)	始原Ⅰ(田中　賢)	倉田　卓正
46	1993	東播金賞	潮煙(上岡洋一)	トッカータとフーガ　ニ短調(バッハ)	山本　茂之
47	1994.08.12	県奨励賞	雲のコラージュ(櫛田朕之扶)	バレエ「仮面舞踏会」よりワルツ、ギャロップ(ハチャトゥリアン)	山本　茂之
48	1995	東播銀賞	スプリング・マーチ(大石　美香)	組曲「ヴァレンシアの寡婦」(ハチャトゥリアン)	山本　茂之
49	1996	東播金賞	般若(はんにゃ)(松浦　欣也)	バレエ音楽「白鳥の湖」より(チャイコフスキー)	山本　茂之
50	1997.7.30	東播銀賞	マーチ「ライジング・サン」(新井　千悦子)	ピータールー序曲(アーノルド)	山本　茂之
51	1998.08.12	県銀賞	童夢(松尾　善雄)	黙示録による幻想より(D.R.ギリングハム)	山本　茂之
52	1999	東播金賞	行進曲「K点を越えて」(高橋　伸哉)	バレエ音楽「コッペリア」より(ドリーブ)	山本　茂之
53	2000	東播金賞	をどり唄(柏崎　真一)	ダンテの神曲より第3楽章「キリストの昇天」(R.W.スミス)	山本　茂之
54	2001.08.11	県銅賞	平和への行列(戸田　顕)	交響曲第2番「オデッセイア」より イリアス(R.W.スミス)	山本　茂之
55	2002.07.28	東播銀賞	追想～ある遠い日の～(岡田　宏)	セントアンソニーバリエーション(ウィリアム・H・ヒル)	鈴木　龍仁
56	2003.08.07	県銅賞	マーチ「ベスト・フレンド」(松浦　伸吾)	リヴァーダンス(B.ウィーラン曲／G.バイテンハイス編)	鈴木　龍仁
57	2004.07.28	東播金賞	吹奏楽のための「風之舞」(福田洋介)	スラヴォニックダンス(E.デル＝ボルゴ)	鈴木　龍仁
58	2005.07.24	東播銀賞	マーチ「春風」(南俊明)	「アメリカの騎士」より選ばれし者(メリロ)	鈴木　龍仁
59	2006.07.28	東播銀賞	架空の伝説のための前奏曲(山内雅弘)	二つの交響的断章(ネリベル)	鈴木　龍仁
60	2007.07.27	東播銀賞	マーチ「ブルースカイ」(高木登古)	バレエ音楽「三角帽子」より終幕の踊り(ファリャ)	鈴木　龍仁
61	2008.07.27	東播銀賞	マーチ「晴天の風」(糸谷　良)	ミュージカル「ラ・マンチャの男」セレクション(ミッチ・リー)	鈴木　龍仁

明高ＯＢ吹奏楽団　吹奏楽コンクール結果一覧

年月日	場所	成績	課題曲	自由曲	指揮者
1957.12.08	東京 両国国技館	全国2位	行進曲 「マンハッタン・ビーチ」 （スーザ）	交響曲第1番第2楽章 （ベートーヴェン）	有永　正人
1958.11.30	名古屋市公会堂	全国1位	行進曲「剛毅潔白」 （タイケ）	行進曲「ツェッペリン伯号」 （タイケ）	有永　正人
1959.11.15	福岡 八幡市民会館	全国3位	行進曲「グロリアス・ユース」 （H.S.ウィスラー）	組曲第1番変ホ長調から 行進曲（ホルスト）	呉　幸五郎
1960	–	不参加	–	–	
1961.11.12	東京 台東体育館	全国2位	行進曲「ジュビリー」 （E.F.ゴールドマン）	交響曲第6番第3楽章 （チャイコフスキー）	呉　幸五郎
1962.10.28	室蘭市 富士製鉄体育館	全国1位	行進曲「鬨の声」 （須摩　洋朔）	歌劇「ファウスト」から ヌビア奴隷の踊り・クレオパトラとその奴隷達の踊り・フリネの踊り （グノー）	有永　正人
1963.11.10	岐阜市民センター	全国1位	行進曲「希望」	序曲「ウィーンの朝、昼、晩」 （スッペ）	青山　正
1964.11.08	高松市民会館	全国1位	バンドのための楽章 「若人の歌」（兼田　敏）	舞踏組曲「シルビア」 （ドリーブ）	青山　正
1965.11.14	長崎市公会堂	招待演奏	象とハエ（クリング） 雷鳴と稲妻（J.シュトラウス） 組曲第2番から（ホルスト）		松尾　泰三
1966.11.20	仙台 宮城県民会館	全国2位	吹奏楽のための小狂詩曲 （大栗　裕）	組曲「カレリア」から （シベリウス）	青山　正
1967.09.15	大阪 高槻市民会館	関西2位	バンドのためのディヴェルティメント （兼田　敏）	組曲「十字軍のシグール」から忠誠をたたえる行進 （グリーグ）	青山　正
1968.09.08	大阪 厚生年金会館	関西2位	吹奏楽のための幻想曲 「移り気な5度のムード」 （塚原　哲夫）	祝典のための音楽 （ゴードン・ヤコブ）	岩井　秀昭
1969.08.10	西宮市民会館	県優秀賞	吹奏楽のための音詩「南極点への序曲」 （岩河　三郎）	交響前奏曲 （ジョン・カカバス）	青山　正
1970.08.23	姫路市厚生会館	県優秀賞	音楽祭のプレリュード （A.リード）	交響曲第2番第1楽章 （ボロディン）	松井　隆司
1971.08.22	神戸国際会館	県優秀賞	行進曲「太陽の下に」 （奥村　一）	コラールとカプリチオ （C.ジョバンニーニ）	桑原　孝雄
1972.08.27	尼崎市文化会館	県優秀賞	シンフォニック・ファンファーレ （三沢　栄一）	フランス組曲から3曲 （ミヨー）	徳田　康行
1973.08.26	西宮市民会館	県銀賞	吹奏楽のための 「アラベスク」（名取　吾朗）	エル・サロン・メヒコ （コープランド）	二階堂正隆
1974.08.25	姫路文化センター	県銀賞	高度な技術への指標 （河辺　公一）	スペイン狂詩曲 （シャブリエ）	徳田　康行
1975.08.03	神戸文化ホール	県銀賞	吹奏楽のための練習曲 （小林　徹）	ウエストサイド物語から （バーンスタイン）	松井　隆司
1976.08.01	明石市民会館	時間超 過失格	ポップス描写曲「メインストリートで」 （岩井　直博）	バレエ音楽「牝鹿」から （プーランク）	世戸　啓之
1977.07.31	尼崎市文化会館	県金賞	ディスコ・キッド （東海林　修）	エルザの大聖堂への行進 （ワグナー）	桑原　孝雄
1978.08.20	西宮市民会館	県銀賞 朝新奨励賞	ジュビラーテ （R.ジェイガー）	アッピア街道の松 （レスピーギ）	松井　隆司
1979.08.12	姫路文化センター	県銅賞	幻想曲「幼い日の想い出」 （藤田　玄播）	「スーパーマン」 （J.ウィリアムス）	桑原　孝雄
1980.08.17	神戸文化ホール	県銀賞	北海の大漁歌 （岩河　三郎）	バレエ組曲 「ロメオとジュリエット」から ティボルトの死 （プロコフィエフ）	山口　博之
1981.08.16	明石市民会館	県銅賞	東北地方の民謡によるコラージュ （櫛田朕之扶）	平和の祭 （ニクソン）	山口　博之
1982.08.08	尼崎市 総合文化センター	県銀賞	サンライズマーチ （岩河　三郎）	シンフォニックバンドのための序曲 （兼田　敏）	朝日　美彦
1983.08.14	加古川市民会館	県銀賞	吹奏楽のためのインベンション第1番 （内藤　淳一）	祝典行進曲 （アリエ）	山口　博之
1984.08.12	姫路文化センター	県銀賞	マーチ・オーパス・ワン （浦田　健次郎）	リンカーシャーの花束 （グレンジャー）	山口　博之
1985.08.11	尼崎市 総合文化センター	県銀賞	波の見える風景 （真島　俊夫）	組曲「ハーリヤーノシュ」から　第4、第6曲 （コダーイ）	桑原　孝雄

～ 思 い 出 の 曲 を 振 り 返 っ て ～

【 明 高 音 楽 部 】

バック・オブ・ボンズ　　1953年 関西1位

第3回全関西吹奏楽コンクール　ファンファーレの部

サンブル・エ・ムーズ連隊行進曲　　1965年 県代表・関西

1792年のフランス革命で勇名を馳せた農民から結成されたサンブル・エ・ムーズ軍の活躍を描いた曲で、いろいろなバリエーションがあります。

歌劇「ハーリ・ヤーノシュ」より間奏曲　　1968年 県代表・関西

近代ハンガリーの代表的作曲家、ゾルダン・コダーイ作曲。彼の作品の中で最も知られ、演奏される機会の多い管弦楽のための組曲です。退役軍人のハーリじいさんの奇想天外なほら話を描いた「歌劇」です。

歌劇「イスの王様」序曲　　1969年 県代表・関西優良賞

1881年、エドゥアール・ラロ作曲。フランスで絶頂を迎えていたワグネリズムの真っ只中で作曲された作品であり、ワーグナーの歌劇・楽劇の断片が頻繁にかなり目立つ形で引用されています。

バレエ音楽「四季」より　秋　　1974年 県代表・関西

グラズノフ作曲。この曲はバレエ音楽において、自然の情景を擬人化したもので抽象バレエの先駆的作品と言われています。中でも第4景の「秋」のバッカナーレ（ロンド風の速い音楽）が特に有名です。

ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯　　1977年 県代表・関西優良賞

リヒャルト・シュトラウス作曲。14世紀北ドイツの伝説の奇人、ティル・オイレンシュピーゲルの冒険談を題材に、シュトラウスの管弦楽法全てが生かされた傑作です。

【 明 高 ＯＢ 】

1957年　全国2位　　交響曲第1番第2楽章

ベートーベン作曲。明高OB吹奏楽団結成後、初のコンクールへ参加。

1958年　全国1位　　行進曲「ツェッペリン伯号」

タイケ作曲。タイケの作品中最も美しい旋律を持つ世界的に有名な曲。日本では昭和33年、第6回全日本吹奏楽コンクールで、明高OB吹奏楽団がこの曲を演奏して優勝したことから特に有名になりました。

1962年　全国1位　　歌劇「ファウスト」から

ヌビア奴隷の踊り・クレオパトラの奴隷達の踊り・フリネの踊り

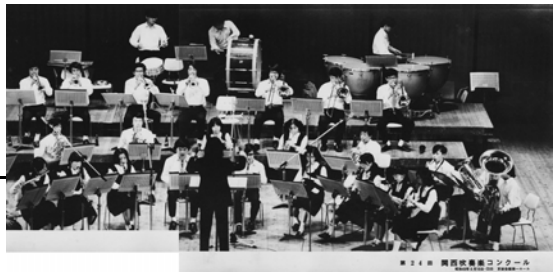
グノー作曲　グノーの代表的傑作というだけでなく、フランス歌劇中の第一位を占めるもの。この組曲から3番、4番、フィナーレを自由曲として演奏し優勝したのが、昭和37年室蘭で行われた第10回全日本吹奏楽コンクールでした。

1963年　全国1位　　序曲「ウィーンの朝、昼、晩」

フランツ・スッペ作曲。彼はウィーンのヨーゼフシュタット劇場その他の楽長を歴任した作曲家。この曲は1844年に同名の喜劇の付随音楽として書かれました。力強い導入に続いて独奏サックスやクラリネットが活躍します。

1964年　全国1位　　舞踏組曲「シルビア」

レオ・ドリーブ作曲。1876年6月14日、パリ、オペラ座で初演。当時はそれほど有名にはならなかったのですが、1952年にフレデリック・アシュトンの振り付けで再演されたことで有名になりました。1962年より3年連続で全国1位となり、翌年は招待演奏となりました。



～ 明石中学時代　（昭和4年～23年）～

'1920

最初の音楽部（明石中学第1回生卒業記念写真帖から）

'1930

運動会。旗には明中義勇陸戦軍楽隊とあります

1932

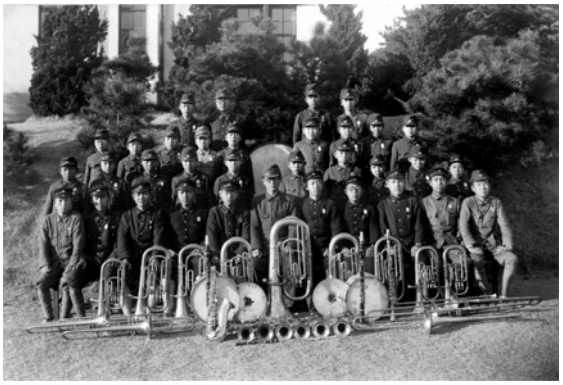
1935

1933

1937

1941

1942



1942

1942

1943

戦時下の「音楽班」

～　明石高等学校　昭和時代（その1）　～

1953

1953

ファンファーレの部　優勝の年。 衣装もきまってます

1957

結成の年早くも第5回全日本吹奏楽ｺﾝｸｰﾙに出場
「大学・一般の部」で2位に食い込む

1958

当初OB・現役合同だったOB吹奏楽団
（昭和33年6月15日、京都円山公園にて）

1958

名古屋市つるまい公園内の公会堂にて

1958

結成2年目にして全国優勝,胸を張って凱旋帰明。
市中をパレード

1962

2度目の全国1位、祝賀パレード

1962

祝賀パレード

1962

淡路富島小学校にて

～　明石高等学校　昭和時代（その2）　～

1970

生徒会主催、納涼コンサート（中部講堂）
納涼コンサートは現在も継続中

1972

部員不足で柔道部員を助っ人に入れて出場

1978

全国高等学校総合文化祭出場
ここに山本郁夫氏、延原正生氏の姿も・・・

1978

洋上修学旅行中も演奏

1979

市内総合練習（課題曲：『フェリスタス』の指導）
故 兼田敏先生によるご指導でした

1979. 5. 6 【音楽部創部50周年記念演奏会　プログラムより】

本日から遡ること30年の5月6日に創部50周年記念演奏会が開かれた。
クラリネット・ソロの岩井秀昭氏の誕生日も同じ5月6日というであった。
今年は誕生日の上に年男です。 先輩、誕生日おめでとうございます。
50周年当時の現役の実行委員が今回の80周年ではOBとして家族総出で80周年記念誌を作成させて戴きました。

～ 明石高等学校　平成時代（現在） ～

2000

東播地区ｺﾝｸｰﾙ （加古川市民会館前にて）

2001

中部講堂前にて

2006

現役OB合同練習
ドッソの合唱合せ練習を終えて

2008

東播地区ｺﾝｸｰﾙ （加古川市民会館前にて）

80周年記念演奏会委嘱作品 『遥かなる時空の黎明』

今回の80周年記念演奏会を実行すると決定したのが2月6日の定期演奏会の打ち合わせの場（酒道場）でのことであった。80周年の目玉が欲しいと言う話が飛び出し、そこで今まではソリストを呼んでくるのが多かったが、今回は作曲を頼もうと言う話が出て、お願いしたのが高33回卒の延原正生氏であった。先輩からの頼みで断われなっかのか翌朝には快諾のメールをいただき作曲していただけることとなりました。
後日、指揮まで強制的に依頼すると言う横暴ぶりであった。酔っぱらいの先輩で申し訳ありません。

延原正生氏より
「明高を卒業してから吹奏楽コンクールで3年間参加させていただいてからは、25年間全くご無沙汰してしまった明高と、作曲で再び出会うことになるなど とはまるで考えてもいなかったことで、本当に夢のような話とはこのようなことを言うのだと感じると共に母校の初演にとても感謝しています。今回の曲は、80周年という長い歴史の深さを表すと同時に、さらに未来に向けての期待や新たな歴史の始まりを讃える意味で、「遥かなる時空（とき）の黎明」と名付けました。終始祝典的なイメージを持たせることを意図していますが、長い歴史と未来への期待感も盛込めたらと思っています。」

2009.04.12　80周年記念演奏会　現役･OB合同練習　『遥かなる時空の黎明』を初見練習中　（指揮=大崎健一）
わずか数時間前に完成した新曲『遥かなる時空の黎明（初稿）』を初見にて合奏
メールにてスコアをもらうがパート譜は未完成、あわてて楽譜の切り貼りを行い合奏へ・・・・

最後に

80周年記念冊子を作成することが決まったのが3月初旬にも関わらず、多くの方にご協力いただきこのような短期間で無事完成することができました。ご協力いただきました全ての方に御礼申し上げます。

音楽部創部80周年記念誌作成委員会　一同

明高音楽部
大正14年　創設